

2023年度 市立函館高等学校 シラバス

| 教科 | 科目 | 単位数 | 年次・コース | | | 教科担任 | |
|---|--|--|--------|--------------------------|--|--------------|-----------|
| 家庭 | 子どもの発達と保育 | 2 | 3年次選択 | | | 橋本 晃子 | |
| 使用教科書 | 実教出版 子どもの発達と保育（新訂版） | | 使用副教材 | 子どもの発達と保育 学習ノート | | | |
| 科目の目標 | | | | | 道徳教育のねらい | | |
| 乳幼児の発達の特徴・生活と保育に関する基礎的・基本的な知識を修得させ、生徒の子どもへの理解を深める。また、子どもの健全な成長のために果たすべき社会の役割や、社会の一員としてより良い生活環境のあり方を考える力を育む。 | | | | | 社会変化の現実と向き合いながら、人間が生まれてくることの意味や成長の中で乗り越えるべき課題について考える。また、いのちを産み育てる責任と人権を尊重することの大切さを | | |
| 育てたい6つの力（資質・能力） | | | | | | | |
| 学習活動内容 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| | | 主体的 学習力 | 基礎力 | 思考・分析力 | 発信・ 表現力 | 自他認知・協働 力 | 計画 実行力 |
| 1 | 発達と乳幼児期の意義 | ○ | ○ | | | ○ | |
| 2 | 発達と保育環境 | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 3 | 子どもの発育 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 4 | 子どもの精神発達 | ○ | ○ | | | | |
| 5 | 人間関係の発達 | ○ | ○ | | ○ | | |
| 6 | 生活と養護 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 7 | 子どもの遊び（製作を含む） | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| 8 | 生活習慣の形成 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 9 | 健康管理と事故予防 | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 10 | 子どもの食生活（実習含む） | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 11 | 保育の意義と重要性 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 12 | 家庭保育と集団保育 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 13 | 子どもの福祉と子育て支援 | ○ | ○ | | | | |
| 14 | グループワーク | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 15 | チェックテスト | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| 16 | | | | | | | |
| 17 | | | | | | | |
| 18 | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | |
| 評価の観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | | 技能 | | | |
| | ・授業活動において積極的姿勢で参加・活動しているか。 ・授業の準備や課題提出が十分か。 | ・授業で学んだ知識をもとに、保育に関する諸問題や課題を見つけ、論理的に考え選択し、それを表現することができるか。 | | ・実習や作製を通して、その技術を習得しているか。 | | | |
| 評価の方法 | 次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。 | | | | | | |
| | | 授業での取組 | 課題への取組 | 課題の完成度 | 実習 | | |
| | 関心・意欲・態度 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 思考・判断・表現 | ○ | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 技能 | | | ◎ | ◎ | | |
| 知識・理解 | ○ | ○ | | ○ | | | |

子どもの発達と保育 授業計画

| 授 業 計 画 | | | | |
|---------|----------------|---------------------------------|---|--|
| | 月 (時 数) | 単元・考査等 (配当時数) | 学習のねらい | 学習内容 (配当時間) |
| 前 期 | 4月 | 1章 子どもの発達の特性 (3時間) | ・人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解する。 | ・発達と乳幼児期の意義 (1) ・発達と保育環境 (2) |
| | 4月 5月 6月 | 2章 子どもの発達の過程 (17時間) | ・生命誕生に関わる母体環境の重要性を知る。 ・新生児の身体的特徴を知り、特に養護に配慮しなくてはならないことを理解する。 ・乳幼児の生理的特徴、精神発達の特徴を学び、重要な時期であることを理解するとともに、その養護の重要性を理解する。 | ・子どもの発育 (6) ・子どもの精神発達 (6) ・人間関係の発達 (4) ・チェックテスト (1) |
| | 7月 8月 9月 | 3章 子どもの生活 (14時間) | ・乳幼児の生活の特徴を学び、発育発達に応じた養護の必要性を知る。 ・生活習慣形成の意義と重要性を理解する。 | ・生活と養護 (4) ・子どもの遊び (製作含む) (10) |
| 後 期 | 10月 11月 | 3章 子どもの生活 (18時間) | ・日常の健康状態の観察など、乳幼児の健康を守るための保護者の役割を理解する。 ・乳幼児の成長段階における事故の実態と原因などを学習し、安全教育のために保育者がつとめなければならないことを理解する。 | ・生活習慣の形成 (5) ・健康管理と事故予防 (2) ・子どもの食生活 (実習含む) (10) ・チェックテスト (1) |
| | 12月 1月 | 4章 子どもの保育 5章 子どもの福祉 (8時間) | ・現在の保育をめぐる問題を取り上げ、高校生として保育を学ぶ意義を理解する。 ・乳幼児は遊びを通して発育発達することを理解し、保育者が発達に合わせて遊びを働きかけることを学ぶ。 ・保育の場としての家庭保育と集団保育があることを知り、それぞれの特徴や役割があることを学ぶ。子どもの成長発達に両方が必要であることを理解する。 | ・保育の意義と重要性 (2) ・家庭保育と集団保育 (2) ・保育の方法 (2) ・子どもの福祉と子育て支援 (2) |